

## 前回資料 1 2（鉛の毒性に関する知見について）の補遺

## － 鉛に関する神経発生毒性の知見について －

## 1. 動物試験の状況

動物試験によれば、催奇形性があるという報告とないという報告が共存している（ただし、いずれも有機鉛のデータ）<sup>1)</sup>。

## 2. 人に関する情報

○人については、生殖毒性物質として取り扱われているが、その因果関係が全面的に明らかになっていない<sup>1)</sup>。

○これまでの報告から、催奇形性物質とは認識されていない<sup>1)</sup>。

○人間の胎児において、鉛が中枢神経系の発達に影響するという根拠は十分ではない<sup>1)</sup>。

○新生児の精神的な発達について、鉛の曝露との因果関係があるという報告とないという報告がある<sup>2)</sup>。

○鉛の生殖毒性については、更なる検討を要するとの指摘もある<sup>2)</sup>。

## （参考文献）

1) Schardei GL, Chemically Induced Birth Defects, 3rd ed, Marcel Dekker, 2000

2) Shepard TH et al, Catalog of teratogenic agents 7th ed, The Johns Hopkins Univ. Press, 2004